

田布施町まち・ひと・しごと創生総合戦略

アクションプラン

(平成 30 年度評価検証資料)

【評価】

- A：施策が完了したもの
施策を実行し、計画どおりに進んでいるもの
施策を継続実施できているもの

- B：施策は実施しているが、課題・問題点が大きいものや成果の改善余地があるもの
平成 30 年度以降に施策を実行するために具体的な準備等を行ったもの

- C：調査検討中のもの
施策の実施時期が令和 2 年度以降のもの
施策未実施

令和元年 6 月 14 日

田布施町地方創生検討委員会

～ 目次 ～

基本目標1 産業振興による雇用の創出

(1) 雇用の創出	1
① 企業誘致の促進	
ア. 企業立地奨励金交付事業	
イ. サテライトオフィス等推進事業（光ファイバー網整備）	
② 中小企業の支援	
ア. 柳井地域合同就職面接会	
イ. 創業支援事業	
ウ. 売れるものづくり支援事業	
(2) 農林水産業の振興	4
① 農林水産業の担い手の確保と育成	
ア. 新規就業者促進事業	
イ. 農林漁業体験事業	
ウ. 農林水産物販路拡大事業	
エ. 農水産物ブランド化調査・検討事業	
オ. 国営緊急ほ場整備事業	
② 構造改革特区の活用	
ア. 地域経済循環事業	
(3) 観光産業の育成・支援	7
① 観光開発連携事業	
ア. 体験型観光事業	
イ. 特産品開発事業	
ウ. のんびらんど・うましま利用促進事業	
エ. 新たな観光拠点の検討事業	

基本目標2 人材の定着・環流・移住の推進

(1) UJITアーンの推進	11
① 都市と農山漁村との交流	
ア. たぶせIU促進事業	
イ. 地域おこし協力隊事業	
(2) 大学等との連携・協働による若者の定住促進	12
① 大学等との連携・協働による若者の定住促進	
ア. 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業	

基本目標3 結婚・出産・子育て環境の整備

(1) 若い世代の結婚、妊娠・出産・子育ての支援	13
① 安心して子どもを産み育てられるサポート体制の充実	
ア. 婚活イベント開催事業	
イ. 妊娠・出産のサポート体制の充実	

ウ. 子育てのサポート体制の充実	
② 出産・子育て支援の充実	
ア. 出産・子育ての負担軽減	
イ. 子育て支援事業の充実	
(2) 教育の充実	18
① 教育の充実	
ア. 教育の充実	
イ. 図書館の充実	

基本目標4 持続可能で元気な地域社会の形成

(1) 地域と地域の連携	21
① 地域コミュニティのまちづくり	
ア. まちづくり推進事業	
イ. 我がまちスポーツ推進事業	
ウ. 麻里府地区活性化事業	
エ. 買物送迎サービス事業	
② 地域資源を活用したまちづくり	
ア. 河川公園開放イベント事業	
イ. 伝統芸能活用事業	
ウ. 新たな拠点づくり	
(2) 空家対策の推進及び住環境の整備	24
① 空家対策の推進	
ア. 空家対策の推進	
② 住環境の整備	
ア. 公営住宅の整備	
(3) 安全・安心のまちづくり	27
① 安全・安心のまちづくり	
ア. 安全・安心のまちづくり	
(4) 地域情報の発信力の強化	28
① 地域情報の発信力の強化	
ア. 地域情報の発信力の強化	
(5) 広域連携の推進	28
① 広域連携の推進	
ア. 広域連携の推進	
(6) 行財政の向上	29
① 公共施設の維持管理の最適化	
ア. 公共施設の維持管理の最適化	

基本目標1 産業振興による雇用の創出

(1) 雇用の創出

① 企業誘致の促進

ア. 企業立地奨励金交付事業

企業の新規立地を促進するため、支援制度の充実及び適地の確保を行います。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
県企業立地推進室、東京・大阪企業誘致センターと連携した誘致の取組	C	B	B	B	県企業立地推進課と連携した取組を行っている。		引き続き、県企業立地推進課等と連携して施策を進める。
町内工業団地内や遊休地などの適地確保	C	A	C	C	新たな事例なし		情報収集等に努める。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	B	B	県企業立地推進課と連携し、情報発信を行った。		ホームページ等各種媒体で周知を継続
企業立地促進条例の充実	A	A	A	A	条例改正済		町ホームページのみでなく、県ホームページ等各種媒体で周知を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
新規企業誘致件数	22社 (H26)	25社	26社	26社	25社 (H27~31)

イ. サテライトオフィス等推進事業 (光ファイバー網整備)

町周辺部へ光ファイバー網を拡大し、空家や空店舗を有効活用したサテライトオフィスやテレワークが可能となる環境を整備し、都市圏からのIT・アート・デザイン等事業者の誘致を行います。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
町周辺部への光ファイバー網の年次的整備	A	B	B	B	国から新たな制度(高度無線環境推進事業)が措置され、申請の検討を行った。しかし、事業の年度内終了等の課題があり申請に至らなかった。	事業期間の検討	通信事業者に新たなスケジュール、事業費の検討を依頼しており、その結果を精査して次年度以降の事業実施の為、準備を行う。
サテライトオフィス用空家の確保	B	B	B	B	県サテライトオフィス誘致協議会に物件2件登録	登録物件のうち1件が別事業にて利用される見込のため、物件登録が減少する。	情報収集等に努める。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
誘致受け入れ地区との調整	C	C	C	C	未実施		必要に応じて調整
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	A	B	B	県サテライトオフィス誘致協議会のホームページで周知。県作成のパンフレットの内容変更		県企業誘致推進連絡協議会のIT・サテライトオフィス部会に参加して、周知を行う。
都市圏への売込み戦略	C	C	C	C	未実施		県企業誘致推進連絡協議会のIT・サテライトオフィス部会を通じて、東京等に売込みを行う。また、県と協力して地方創生推進交付金（移住・起業・就業タイプ）事業として取組みを行う。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
サテライトオフィス等誘致件数	0件（H26）	0件	0件	0件	5件（H27～31）

② 中小企業の支援

ア. 柳井地域合同就職面接会

企業の就職面接会を柳井地域1市4町合同で実施します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
柳井地域1市4町合同での就職面接会の実施	A	A	A	A	柳井地域1市4町合同で開催。46人が参加、町内企業に3人が就職した。	求職者の減少	引き続き実施する。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	B	B	B	B	町ホームページやチラシによる周知を図った。		継続して取り組む。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
合同就職面接会を通じた就職	0%（H26）	10.3%	8.3%	6.5%	求職者の15%（H31）

イ. 創業支援事業

創業支援事業計画を策定し、中小企業の支援制度を検討するとともに、大島商船高等専門学校が主催する「島スクエア事業」と連携し、創業家養成の支援を行います。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
島スクエア事業と連携しての創業家養成の支援	B	B	B	A	島スクエアの起業に向け入門講座が町内で開催さ		引き続き周知を行う。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
					れ、定員が満員になるほど、多くの人が参加した。		
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	C	B	島スクエアに関しては広報やポスター掲示等で周知し、多くの人が参加した。		広報やホームページを活用してPRする。
創業支援事業計画の策定	A	A	A	B	引き続き柳井市商工会議所の創業セミナーを町指定セミナーとした。	創業支援に関する知見が不足している。	創業支援事業計画の期間延長の計画変更を行う。
創業補助金交付事業の創設	C	B	C	C	創業補助金交付事業の創設のための制度詳細を検討できなかった。	創業支援に関する知見が不足しており、継続的な支援体制の構築が難しい。	創業補助金交付事業の創設

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
創業支援件数	0件 (H26)	0件	0件	0件	5件 (H27～31)

ウ. 売れるものづくり支援事業

周南地域地場産業振興センター等の積極的な活用や産学連携も視野に入れて、売れるものづくりを支援します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
周南地域地場産業振興センター、町内企業との連携強化	A	A	A	A	地場産業振興センター、町商工会と、密に連携している。また、周南サポート事業として町内企業のブランド認定(3件)の支援を受けた。		引き続き、周南地域地場産業振興センターと連携して事業を進める。
産学連携による商品開発の促進	A	A	B	A	田布施農工と交流館の連携の調整を行った。加えて、地場産業振興センターの周南サポート事業として町内企業のブランド認定(3件)の支援を受けた。		新たな課題があれば、連携して実施する。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	B	A	地場産業振興センターと連携して、東京でのイベント出展を行った。		引き続き、周南地域地場産業振興センターと連携して事業を進める。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
周南サポート事業支援件数	0件 (H26)	4件	5件	8件	5件 (H27～31)

【評価の仕方】
A：できた B：すこしできた C：できなかった

(2) 農林水産業の振興

① 農林水産業の担い手の確保と育成

ア. 新規就業者促進事業

担い手を確保するため、地元生産者や団体と連携し受け皿づくりを行い、新規就業のための国・県の給付金や地域おこし協力隊事業等を活用し新規就業者を促します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
地元生産者や団体の連携強化及び経営の安定化	A	A	A	A	アグリ南すおう(株)における法人間一貫指導体制の確立(整備した機械を拠点法人に配置済)	年次計画に基づく着実な遂行	作業の受委託の体制確立や独自雇用に期待
新規就農者支援事業を活用し、新規就農者の養成を促す	B	B	B	A	移住就農相談会に積極的に参加し、新規就農者確保に努め、拠点法人(新規就業者の受け皿)を確定	拠点法人新規就業者の育成	次世代の後継者確保のため、引き続き担い手育成総合支援対策に取り組む
ニューフィッシャー確保育成推進事業を活用し、新規就漁者養成を促す	B	B	A	A	ニューフィッシャー育成事業の活用中(1人)		県・町・漁協で連携し、育成事業を推進する。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	A	B	ホームページを活用した新規就農促進関連の情報発信	魅力あるホームページへの変更	町の方針を明確に反映した具体的な内容にする

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
新規就業者数	0人 (H26)	2人	5人	7人	5人 (H27~31)

イ. 農林漁業体験事業

お試し体験を計画し、都市部(広島)からの参加者誘致を募ります。また、農林漁業を体験し宿泊が可能な農林漁家民宿の設置も促していきます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
地元生産者や団体の理解と連携強化(受け皿づくり)	C	B	A	C	未実施		
お試し体験事業	C	B	A	C	台風等の影響により開催中止した。1回目は応募者なし、2回目は応募者はあったが、台風による開催の中止となった。	お試し農業移住体験ツアーのリニューアル開催	意欲のある希望者を丁寧に誘導し、移住新規就農者の定着に繋げる
農林漁家民宿の設置の促進	C	C	C	C	設置希望者がいない。		情報収集等に努める。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	A	A	パンフレットを作成し、東京で情報発信を行った。		継続して取り組む。
都市部(広島)でのPR活動	C	C	A	A	パンフレットを作成し、東京・広島で情報発信を行		継続して取り組む。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
					った。		
集客のための取組(高速バスの利用、社内研修などでの可能性)	C	C	C	C	未実施		

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
お試し体験参加者数	0人 (H26)	0人	23人	23人	延50人 (H27～31)
農林漁家民宿設置数	0軒 (H26)	0軒	0軒	0軒	1軒 (H27～31)

ウ. 農林水産物販路拡大事業

地元生産者や事業者、学校、特産品委員会と連携し、「やまぐちブランド」への登録をめざすため、特産品の掘り起こしや開発を行います。また、直売店など関係機関と協働した売り込み強化及び販路拡大の支援、6次産業化の取組を行います。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
地元生産者や事業者、学校、特産品委員会との連携強化	B	A	B	A	地元生産者や事業者、学校、特産品委員会と密に連携した。		継続して取り組む。
特産品の掘り起こしや開発	B	A	B	A	田布施農工と連携し具体的な商品開発を実施した。		更なる商品開発を実施する。
売り込み強化及び販路拡大の支援、都市圏でのPR活動	B	B	B	B	田布施農工と連携して開発した商品の試食・アンケート調査を広島フードスタジアムで実施した。		食フェスなどを通じたPR活動を実施する。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	B	C	ブランド構築検討委員会内で検討中		田布施倶楽部等、情報発信力のある媒体を活用する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
やまぐちブランドの登録	0品目 (H26)	0品目	0品目	0品目	1品目 (H27～31)

エ. 農水産物ブランド化調査・検討事業

本町の産業の活性化や、交流人口の拡大、定住人口の増加に向け、農水産物のブランド化構築を見据えた調査・検討を行い、雇用の創出、農水産物の高付加価値をめざした取組を行います。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
ブランド検討ワークショップの開催・ブランド戦略の策定	A	A	B	C	ブランド構築検討委員会内で検討中		継続して取り組む中で、商品絞り込みを行う。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
商品開発・リーフレットの作成・情報発信	A	A	B	B	パンフレットを作成し、東京で情報発信を行った。		tabuse キッチンブースの確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
ブランド構築に関わる団体・企業数	0 団体 (H26)	13 団体	13 団体	13 団体	10 団体 (H27～31)
特産品に関するパンフレット・レシピの配布	0 部 (H26)	5,500 部	5,500 部	5,500 部	2,000 部 (H27～31)

オ. 国営緊急ほ場整備事業

農業が職業として選択しえる魅力とやりがいのあるものとなるよう、効率的で安定的な農業経営を育成します。また、集落営農、複数経営の法人化などによる農業経営の法人化を支援します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
整備中のほ場整備地区において、法人の設立を促す(4地区)	B	B	A	A	宿井・時貞、石の口、麻郷奥地区における法人を中心とした担い手への農地預け入れ	担い手の育成	麻郷奥地区における農事組合法人設立に向けての話し合いを継続する
新規国営ほ場整備地区において、担い手の掘り起こしを行う	C	A	C	B	新川・本町、吉井、西田布施・友石、中郷地区における担い手候補の調整	地域と担い手候補の意向を把握	地域での話し合い活動(人・農地プランの実質化)の実施

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
集落営農法人数	7 法人 (H26)	8 法人	8 法人	9 法人	11 法人 (H27～31)

② 構造改革特区の活用

ア. 交付金活用事業 (地方創生推進交付金等)

どぶろく特区及び次世代型農業生産構造確立特区を活用し、産官学金等が連携した新商品開発や販路開拓、加工・販売施設の整備等の6次産業化の取組を推進します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
どぶろくを開発・製造するため、事業者と農工高校の連携を支援	B	A	A	C	町内から事業希望者がいない。		
次世代型農業生産構造確立特区を活用した取組	C	C	C	C	新たな取組はなし 次世代型農業生産構造確立特区の申請を取下(H31.3.29 特区取り消し)。		
6次産業化に向け、事業者、農工高校、金融機関が連携した取組を支援	B	C	B	A	経済課地域振興係で田布施農工と連携による商品開発を行った。		継続して取り組む。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	C	A	A	地場産業振興センターと連携して、東京でのイベント出展を行った。 また、田布施農工と連携して開発した商品の試食・アンケート調査を広島フードスタジアムで実施した。		継続して取り組む。
売り込み強化及び販路拡大の支援、都市圏でのPR活動	C	C	B	A	どぶろく生産者がいない中で、研究用の酒税免許を持っている田布施農工高校と連携して、東京で町のPRを実施。		引き続き、参加可能な出展を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
どぶろく製造事業者	0社 (H26)	0社	0社	0社	1社 (H27～31)
新規雇用者数	0人 (H26)	0人	0人	0人	4人 (H27～31)

(3) 観光産業の育成・支援

① 観光開発連携事業

ア. 体験型観光事業

農林漁業、伝統芸能、スポーツ施設、史跡を活用した体験型観光に取り組み、交流人口の拡大を図ります。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
農林漁業体験型観光の実施	C	B	C	C	現在のところ、実施は難しい。		
伝統芸能体験型観光の実施	C	C	C	C	観光としての取り組みを共同で行うことは困難と思われる。 体験型としての実施は困難。	観光協会・経済課・社会教育課との連携	情報の提供を行う。
スポーツ施設を利用した合宿型観光	C	B	C	B	利用者は町内が多い。「おいでえ」での合宿型観光は困難。 町外からのスポーツ大会などを誘致した。	合宿型の団体受入れは、キャパシティ上困難。	観光協会等との連携に努める。
史跡を巡る観光	B	B	B	B	郷土館を中心に町内の文化資産の情報の充実に努めた。 ルート整備済。	駐車場の確保などハード整備面など困難な状況。また情報提供の場所を増やす方法に乏しい。	情報の発信に努める。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
ホームページ等を活用した情報発信、収集強化	A	B	B	A	郷土館の寄託資料など積極的に展示するなど取り組んだ。 明治150年関連事業として、チラシの配布を行った。また、観光協会と連携して情報発信を行った。	郷土館が大人数に対応しにくい。	郷土館職員のスキルアップを促す。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
観光客数	372,969人 (H26)	370,967人	367,331人	358,686人	374,000人 (H31)

イ. 特産品開発事業

特産品の掘り起こしや開発を行うため、地元生産者や事業者、学校、特産品委員会と連携し、田布施町認定ブランドを構築し、直売店など関係機関と協働した売り込み強化及び販路拡大を支援します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
地元生産者や事業者、学校、特産品委員会との連携強化	A	A	B	B	農工生による商品開発を主軸とした取組を継続中		継続的に取り組む
特産品の掘り起こしや開発	A	A	B	A	農工生による商品開発を主軸とした取組を継続中		継続的に取り組む
売り込み強化及び販路拡大の支援、都市圏でのPR活動	B	B	B	B	広島でのフードイベントに出展するなどしてPR活動を行った。		継続的に取り組む
ホームページ等を活用した情報発信、収集強化	A	A	B	C	ブランド構築検討委員会内で検討中		田布施倶楽部等、情報発信力のある媒体を活用する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
田布施町認定ブランド数	0品目 (H26)	33品目	33品目	33品目	3品目 (H27～31)

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

ウ. のんびらんど・うましま利用促進事業

のんびらんど・うましまの利用が夏季に集中しているため、季節に左右されない運営方法を検討します。また、地域おこし協力隊員と連携し、様々な企画を打ち出すとともに、各種媒体を活用した情報発信を行い、交流人口の拡大に取り組みます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
各種キャンプの誘致	C	C	B	C	未実施		
イベントの企画	A	A	A	A	元隊員が、収穫体験イベントや子どもキャンプ等、様々なイベントを実施。		引き続きイベントを実施
教育的視点での取組	A	B	A	A	小学校3校による馬島への校外学習を実施、更に町子連による親子ふれあいイベントとして「馬島であそぼう」を実施し、77人の参加者があった。また、たぶせキッズ教室を2回実施した。	天候に左右されやすい。悪天候によりたぶせキッズ教室1回中止。	引き続き町子連のイベントを開催し、たぶせキッズ教室で馬島の体験学習活動を予定している。また、町内各小中学校の積極的な利用を行う(城南小が利用予定)。
島の特産品開発	A	B	B	B	元隊員が豆茶を作った。		継続して取り組む
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	A	A	A	独自のホームページ等で情報発信		引き続き、のんびらんどのホームページ等に掲載して、情報発信。
シーズンオフの営業の検討	B	B	B	B	指定管理者と協議	施設整備、予算確保	入浴施設等の新規設備の検討

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
のんびらんど・うましま利用者数	2,178人 (H26)	2,831人	3,565人	3,399人	2,500人 (H31)

エ. 新たな観光拠点の検討事業

田布施駅前前の活性化を図り、新たな観光拠点とするため、周辺道路の整備や駅舎、空家、空店舗の有効活用、また、農工高校とも連携し、一体的な取組が行えるよう総合的な観点で検討します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
関係者・団体、学校、観光協会との連携強化	B	C	C	A	既存の観光拠点の強化として、田布施町地域交流館の改修事業を地方創生拠点整備交付金事業として申請を行い、国から対象事業として決定を受けた。		年度末に事業が完了するよう計画的に取組みを行う。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
事業計画の策定	C	C	C	A	田布施町地域交流館の改修事業を地方創生拠点整備交付金事業として申請する際に、地方再生計画及び地方創生拠点整備実施計画を策定した。		事業の推移を受けて、計画に軽微な変更があれば迅速に対応する。
駅舎内キオスクの活用	C	B	C	C	具体的な取組に至らず。		

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
新たな観光拠点事業計画の策定	0 (H26)	0人	0人	0人	策定 (H27～31)
キオスク来場者	0人 (H26)	0人	0人	0人	1,000人 (H27～31)

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

基本目標2 人材の定着・環流・移住の推進

(1) UJIターンの推進

① 都市と農山漁村との交流

ア. たぶせIJU促進事業

たぶせIJU推進協議会を設立し、お試し住宅の整備や移住体験暮らしツアー、農林漁業体験や農林漁家民宿を設置する都市農山漁村交流事業を実施します。また、移住・定住の相談窓口としての役割を担い、移住・定住希望者が住居などを探するための支援をします。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
たぶせIJU推進協議会の設立	A	A	B	B	H27年度から、たぶせIJU推進協議会設立		
お試し住宅整備事業	A	A	B	B	設置済(宿泊者2人(会議等での利用を除く))	住宅の維持管理等	たぶせIJU推進協議会で予算を確保し、計画的に修繕する。
移住体験暮らしツアーの開催	A	A	B	C	未実施		R1年度に2回実施予定
都市農山漁村交流事業の開催	B	B	B	C	未実施		
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	A	A	A	たぶせIJU推進協議会のホームページによる情報発信を実施。		たぶせIJU推進協議会と連携し、ホームページの内容の充実を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
お試し住宅整備	0か所 (H26)	1か所	1か所	1か所	1か所 (H27~31)
移住体験暮らしツアー参加者数	0人 (H26)	11人	13人	13人	30人 (H27~31)
お試し体験参加者数	0人 (H26)	17人	26人	28人	50人 (H27~31)
移住定住相談件数	0件 (H26)	58件	106件	193件	50件 (H27~31)
移住定住者数	0人 (H26)	5人	18人	26人	4人 (H27~31)

イ. 地域おこし協力隊事業

平成25年度より地域おこし協力隊事業を実施しています。初代隊員には移住者の先駆者として、これからも地域力の維持・強化・活性化に取り組むこととしています。また、任期が終了する平成28年度以降も、引き続き、地域おこし協力隊事業を継続し、新たな隊員による地域の活性化・移住定住の取組を行います。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
新規地域おこし協力隊員募集の取組	A	A	B	A	新規隊員1名着任 追加の新規隊員(1人)の募集をかけた。	隊員の活動内容の明確化	新たな募集
初代地域おこし協力隊員との連携による取組	A	A	A	A	定期的に連絡を取りながら、現隊員との連携を図った。		継続して取り組む。
受け入れ地区・団体との調整・連携	A	B	B	B	新たな協力隊員を募集中		

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
地域おこし協力隊員数	2人 (H26)	3人	3人	4人	6人 (H27~31)

(2) 大学等との連携・協働による若者の定住促進

① 大学等との連携・協働による若者の定住促進

ア. 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに地元産業界の求める人材を養成するための必要なカリキュラムを実現し、地方創生を担う若者の県(町)内定着や産業振興、地域人材の育成に寄与するため、山口大学等や地元産業界と連携し取り組みます。

主なアクション	評価				29年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業との連携	A	A	B	B	協議会総会への参加を行っている。	参加する事業が限られている。	

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
15歳~24歳の若者世代の社会減の抑制	-48人 (H26)	-63人	-33人	-43人	-10人 (H31)

※H26年度の基準値及びH27年度以降の値も、住民基本台帳から算出した若者世代(15歳~24歳)の社会減の値に変更しています。

【評価の仕方】
A：できた B：すこしできた C：できなかった

基本目標3 結婚・出産・子育て環境の整備

(1) 若い世代の結婚、妊娠・出産・子育ての支援

① 安心して子どもを産み育てられるサポート体制の充実

ア. 婚活イベント開催事業

柳井地区広域行政連絡協議会で、未婚化・晩婚化に対する取組として男女の出会いの機会を積極的に提供します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
柳井地区広域行政連絡協議会での共同事業	A	A	A	A	柳井広域で3回開催、参加者は合計83人(馬島での婚活イベントは20人の参加者があり、カップルが2組成立)。	参加者が減少している。	H31年度は馬島、開催時期を6月にして開催予定。その他の開催地も内容等の再検討を行っている。田布施町での内容の変更の検討ができないか打診があった。H31年度は断った。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	B	A	A	ホームページ、広報での情報発信を行っている。特に広報は他地区での開催等に併せて広報で2回掲載を行った。	参加者が増えていない。	引き続き、広報、ホームページ等で周知を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
婚活イベントカップル成立	5組 (H26)	6組	11組	18組	30組 (H27~31)

※柳井広域圏の数値

イ. 妊娠・出産のサポート体制の充実

安心・安全な妊娠・出産ができるよう、医療サービスや母子保健事業の充実を図ります。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
妊婦・乳幼児健診事業	A	A	A	A	乳児健診未受診者に、電話や育児相談にて受診勧奨を行った。	健診未受診者への受診勧奨	未受診者への受診勧奨を行う。
妊婦・出産包括支援事業の相談・支援事業	A	A	A	A	・月に2回相談日を実施。 ・子育て世代包括支援センターの設置に向けて情報収集等を行い、準備を進めている。	妊娠初期から子育て期までの相談窓口の一本化	子育て世代包括支援センターを10月に開設し、妊娠期から子育て期までのサポート体制の強化を図る。
周産期医療支援事業 (柳井圏域)	B	A	A	A	医師の待機態勢確保のために、柳井圏域で支援。		引き続き、柳井圏域の市町や医療機関と連携し、医療体制の現状

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
							維持に努める。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	A	A	A	妊娠届時や転入申請時に窓口でメール配信サービス等をPR(チラシ作成)した。		メール配信サービス等を活用し、引き続き情報を発信する。
産科医確保事業	B	A	A	A	平日の産科医の2人体制を維持している。		今後も、柳井圏域の市町や医療機関と連携し、体制の維持を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
妊婦健診受診率	98% (H26)	97.9%	97.7%	98.4%	100% (H31)
乳幼児健診受診率	98% (H26)	98.5%	98.8%	97.4%	100% (H31)
周産期出産取扱数 (柳井圏域)	32件 (H26)	10件	11件	9件	50件 (H31)
分娩を扱う産科医の確保 (柳井圏域)	2人 (H26)	2人	2人	2人	現状維持 (H27~31)

ウ. 子育てのサポート体制の充実

安心・安全な子育てができるよう、医療サービスや母子保健事業、子育て支援メニューの充実を図ります。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
乳児家庭全戸訪問事業	A	A	A	A	生後2か月までに訪問し、必要に応じて育児相談につなげている。		今後も訪問を継続し、切れ目のない支援が行えるよう体制の充実に努める。 子ども検診(1歳半、3歳時)を同時開催する。
離乳食教室	B	B	B	B	離乳食教室の対象者を3~4か月児から8~9か月児に変更した。教室の参加率は35.8%。アレルギーのある子どもについては、個別対応を実施。	参加率の向上	教室後も継続して切れ目なく相談・指導できるようにする。
両親学級	B	B	B	B	年3回実施したが、就労妊婦が多いことや、近隣の医療機関で同様の両親学級を開催している等の要因により、参加者が少ない。 (母親学級を終了した。)		両親学級の回数を4回に増やし内容の充実を図る。
子どもの成長に応じた食育の推進	B	B	B	B	3歳児健診で、食育講座を年4回実施。		今後、保育園・幼稚園で、食育講座の実施を検討している。 町立保育園以外にもチラシの配布を依頼する。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価	30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27 28 29 30			
感染症予防対策	B B B B	対象者に予防接種の勧奨を行っている。また、未接種者に対しては、接種勧奨の強化を行った(全戸訪問時など)。	接種率の増加	接種忘れを防止するため、未接種者に接種勧奨を継続する。
養育支援訪問事業	- - A -	対象者なし		
小児救急医療支援事業	B B B B	柳井圏域の市町で、休日の2次医療体制を整備。救急医療の適正利用については、育児相談等で啓発を行っている。#8000(子ども医療電話相談事業)の利用件数はH29・83件、H30・111件。		救急医療の適正利用についての啓発
子育て支援センターの運営	A A A A	地域の子育て支援拠点施設として運営されている。	保育需要の増大からくる保育士不足により、週5日以上運営が難しくなっている。	委託先と連携しながら、必要な支援を行う。
ファミリー・サポート事業	A A A A	子育てに関する相互援助事業として、圏内で協同運営している。	依頼会員と提供会員の相互援助で成り立っているが、提供会員の人材不足が課題。	事業の周知を図る。
子育て短期支援事業	- - - A	対象者なし (対応可能施設との契約はできている)		
一時保育、障がい児保育、病児・病後児保育、乳児保育、延長保育事業	A A A A	柳井圏域、光市、周南市、広島広域都市圏での相互利用を実施。		より一層の周知を図る。 H31より、新たに山口県全域での病児病後児相互利用を実施予定。
児童クラブ運営事業	A A A A	麻郷児童クラブ2組の受入人数＝スクールバスの空席人数としていたが、有効活用するため人数の制限を廃止した。	施設の場所が分かれている麻郷児童クラブのクラス分けが課題。	待機児童を出さないよう、懸念される施設(麻郷児童クラブ・東田布施児童クラブ)の増設整備を検討する。
認定こども園の普及	C C C C	現在、町内になし。 (子ども子育て支援事業計画にH29年度以降町内幼稚園2園が認定子ども園に移行予定とあるが、学校教育課に確認したが今のところそのような動きはないとの事。)		学校教育課と連携を取りながら、普及に努める。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価	30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27 28 29 30			
ホームページ(出産・子育て専用サイト)などを活用した情報発信及び情報収集の強化	A A A A	ホームページなどを活用し、迅速な情報発信に努めている。	内容の充実	メール配信サービス等を活用し、引き続き情報を発信する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
成長に応じた食育事業への参加者数	299人 (H26)	258人	303人	334人	350人 (H31)
認定こども園の普及	0園 (H26)	0園	0園	0園	2園 (H27～31)

② 出産・子育て支援の充実

ア. 出産・子育ての負担軽減

出産・子育てに係る経済的負担軽減を図ります。

主なアクション	評価	30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27 28 29 30			
養育のため入院が必要な未熟児への医療給付	A A A A	未熟児への医療給付を実施している(継続)。	未熟児のサポート体制の強化	申請事務の効率化に努めるとともに、サポート体制の強化を図る。
児童手当、児童扶養手当の支給	A A A A	継続実施		
福祉医療費の給付	A A A A	新たに小学校6年生までを対象とした、子ども医療費の無償化の実施に向けた準備を行った。	無償化拡大に伴う財政負担増	H31年度から、新たに小学校6年生までを対象とした子ども医療費の無償化を実施する。
多子世帯への保育料軽減の拡大(同時入所第2子)	B B B B	国・県制度としては拡大しており、全額減免、半額減免で約1/3が適用されている。		国・県制度に準じて継続実施する。
第3子以降の子育て応援金の創設	C C C C	検討段階		具体的な検討・検証を行う。
住宅取得応援事業	B A A A	住宅の着工数が減っていることもあり、申請件数は減少している。 ＝内訳＝ ・親元近居 13件 (転入11件) ・子育て応援 8件 (転入1件)	申請件数が減ってきている。	H31年度より子育て支援の制度を「田布施町住まいる子育て支援事業」として、交付額の拡充を図った。それに加えて、住宅金融支援機構との協定も協議している。(協定内容は要件に合致した場合、金利の引き下げ)
ホームページ(出産・子育て専用サイト)などを活用した情報発信及び情	A A A A	ホームページの早めの更新に努めるとともに、メール配信等を実施し、		ホームページやメール配信を活用して情報発信を行う。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
報収集の強化					情報発信を行った。		

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
保育料減免拡大・第3子応援金	0 (H26)	0	0	0	実施 (H27～31)
住宅取得応援事業	0件 (H26)	44件	100件	121件	50件 (H27～31)

イ. 子育て支援事業の充実

地域における子育て支援、親の子育て支援力の向上、子育て支援事業の充実を図るため、子育てワークショップを開催し、子育て広場の開催や子育てカフェ等の設置を行います。また、育児休業の取得促進や多様な働き方の普及等により、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向け取り組みます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
子育てワークショップの開催	A	A	C	C	H27・28年度の取組の結果、既存の育児サークル、子育て支援拠点事業等との重複が見られたため、未実施。		実際の町内の保護者のニーズや「子ども・子育て会議」の意見をもとに方向性を検討する。
子育て広場の開催	B	B	C	C	H27・28年度の取組の結果、既存の育児サークル、子育て支援拠点事業等との重複が見られたため、未実施。		実際の町内の保護者のニーズや「子ども・子育て会議」の意見をもとに方向性を検討する。
子育てカフェの設置	B	B	C	C	既存事業との重複や利用者ニーズの低さなどにより、「H29年度子ども・子育て会議」において設置検討したが、具体化には至っていない。		NPO等の活動要望があれば検討
ホームページ、スマートフォンを活用した子育て応援サイトの新設	A	A	A	A	H27年度にホームページ開設。H28年度はメール配信等も実施し、情報発信を行った。		ホームページやメール配信を活用して情報発信を行う。
就労のための条件整備(ワーク・ライフ・バランス)	C	C	C	C	県等が開催するセミナーの周知		町内でのワーク・ライフ・バランス推奨事業者数の拡大
ホームページ(出産・子育て専用サイト)などを活用した情報発信及び情報収集の強化	A	A	A	A	H27年度にホームページ開設。H28年度はメール配信等も実施し、情報発信を行った。		ホームページやメール配信を活用して情報発信を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
子育てワークショップ開催回数	0回 (H26)	1回	0回	0回	10回 (H27～31)
子育て広場開催回数	0回 (H26)	0回	0回	0回	5回

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
					(H27～31)
子育てカフェ設置	0 か所 (H26)	0 か所	0 か所	0 か所	1 か所 (H27～31)
ホームページ及びスマートフォンを活用した子育て応援サイトの新設	0 (H26)	新設	新設	新設	新設 (H27～31)
ワーク・ライフ・バランス推奨企業	2 社 (H26)	2 社	1 社	1 社	4 社 (H27～31)

(2) 教育の充実

① 教育の充実

ア. 教育の充実

全校体制による学習規律の確立や徹底、家庭との連携により、主体的な学習態度の育成を図り、県内トップクラスの学力や体力をめざします。また、学校と地域が連携・協働した体制づくりを構築するとともに、子どもの「学び」「育ち」に積極的に関わるコミュニティ・スクール事業に取り組みます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
教育の品質保証(学力保証・生活保証)を推進する小中一貫型の学校づくりの取組	B	B	B	B	県指定の小中連携授業力向上実践研究会を軸に、小中学校で課題を共有して、授業力向上への共通実践を行う。		町教育研修会の小中連携教育推進委員会の活性化
地域ぐるみの教育体制(地域協育ネット)を活かしたコミュニティ・スクールの推進	B	B	B	A	地域協育ネット(学校支援活動)と小中一貫の教育部会(学校運営)の合同委員会を開催(年2回)	町内の学校が連携した「田布施学園構想」の周知	・田布施学園構想図の会議配付 ・熟議から実践(具現化))
ふるさとへの愛を育み、地域創生につながるキャリア教育の推進	A	A	A	A	田布施西小学校で「田布施の未来を考える会(町長他同席)」を実施。また、「田布施町歌」の普及、地元企業への職場体験を行った。更に、田布施中学校で映像制作ワークショップを行った。	「自己有用感」及び「自己肯定感」の向上につながる取組	・児童生徒を巻き込んだ地域創生 ・地元企業への職場体験の拡充
心身共に健康な生涯の基礎づくりとなるスポーツと読書の推進	B	B	B	B	・体力向上における小中学校で1校1取組の実施(継続) ・「読書貯金通帳」を実施		継続実施
地産地消100%をめざす学校給食の推進	A	A	A	A	地産地消100%の日を年9回実施(地産地消率89.5%)		継続実施
チーム学校をめざした教職員組織・役割の見直し(SC、SSW、教員補助者、事務員等と融合した指導体制の充実)	B	B	B	A	SC1人、SSW3人、学習支援員1人、教員補助者8人、事務補助者1人を配置	関係団体との連携強化	・SC、SSWの活用促進 ・組織対応の周知徹底

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
県(町)内就職定着に向けた高校・大学等との連携強化	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大学と連携し、学生の職場体験を実施(小学校1名) ・田布施農工高校の生徒を主に前出講座を各小学校で開催 ・基地内ペリースクールと相互訪問 	県内大学との連携	長期休業中における交流活動の実施

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
学力全国平均	+3.9 ポイント (H26)	+5.2 ポイント	+2.1 ポイント	+4.0 ポイント	+5 ポイント (H31)
コミュニティ・スクール設置率	0% (H26)	100%	100%	100%	100% (H31)
体験的キャリア教育の実施率	100% (H26)	100%	100%	100%	100% (H31)
給食地産地消 100%の実施	年6回 (H26)	年9回	年9回	年9回	年6回 (H31)
放課後子ども教室開催	3校 (H26)	2校	2校	3校	4校 (H31)
不登校児童生徒数	21人 (H26)	19人	13人	10人	減少させる (H31)

(注1)いじめの定義変更による重要業績評価指標からの削除

国の基本方針の見直しにより、H28～29年度でいじめの定義に「けんかやいじりと言われる行為もいじめに該当するか否か判断すること」を含み、その解消とは、①いじめに係る行為が止んでいること、②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことが満たされている必要があると定義されたことから、解消率が大きく変化しています。よって重要業績評価指標から削除しています。

イ. 図書館の充実

町民の読書活動・生涯学習活動の拠点としての充実を図るとともに、学校と連携し、子どもが読書に親しむことができる環境づくりに取り組めます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
地域の知の拠点としての取組	B	B	A	A	良書の確保と廃棄を行い、蔵書の適切な管理に努めた。		引き続き、良書の確保と廃棄を行い、蔵書の適切な管理に努める。(備品の机が大きい)
ホームページなどを活用した最新の情報発信	A	A	A	A	新刊情報、テーマを決めた資料展示など、情報の提供と発信に努めた。		情報収集と情報発信に努める。
子ども読書活動推進	B	A	A	A	各学校と連携し、読書貯金通帳事業の普及に努めた。また、保育園・幼稚園・保健センターへの移動図書、小学校への団体貸出等、積極的に子どもが本に触れる機会を作り、読書の普及・啓発に努めた。		第二次田布施町子ども読書活動推進計画に基づいた総合的かつ継続的な取組を図る。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
読書の普及・啓発	A	A	A	A	図書館まつり、ブックスタート事業、おはなし会等の事業を実施し、読書の普及に努めた。		継続実施
高齢者に配慮した施設の改善、周辺の環境緑化	B	B	A	B	県支援学校等と連携し、周辺環境の緑化に努めた。		高齢者等に配慮した施設の改善に努める。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
貸出点数	87,687点 (H26)	87,133点	85,178点	81,575点	95,000点 (H31)

基本目標4 持続可能で元気な地域社会の形成

(1) 地域と地域の連携

① 地域コミュニティのまちづくり

ア. まちづくり推進事業

地域コミュニティ活動への参加意識を醸成したり、活動を担うボランティア団体やNPO団体の育成や活性化を促す方法を検討し活動を促進します。また、総合戦略の各施策を効果的に推し進めるため、行政、地域住民、企業、学生などと協働し、ワークショップを開催し、町民が主人公のまちづくりに取り組みます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
ボランティア・NPOとの連携・支援・育成	C	C	C	B	地域の自主的な活動を支援している。県民チャレンジの実施、各団体への備品貸出、備品管理を実施。		新たなNPO等の育成を支援
まちづくりワークショップの開催	C	C	A	A	中学生を対象とした映像制作ワークショップを実施し、H30年度は広島広域都市圏の拠点、「V VASE」に動画配信を行っている。	参加者が少なかった為、掘り起こしの検討	H31年度より地方創生推進交付金の対象事業として、映像制作ワークショップに移住の啓発を目的を新たに持たせて、中学生に作製を行ってもらおう。また、地方創生推進交付金の対象事業として新たに田布施農工とのロボット制作ワークショップを開催する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
ボランティア・NPO団体数	26団体 (H26)	26団体	26団体	26団体	27団体 (H31)
まちづくりワークショップの開催回数	0回 (H26)	0回	1回	1回	10回 (H27~31)

イ. 我がまちスポーツ推進事業

町民誰もが、それぞれの体力や関心、適性等に応じたスポーツ活動に参加できる環境をつくるとともに、地域とのふれ合い、家族でのふれ合いの場を提供するためウォーキングを推進します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
我がまちスポーツ・ウォーキングの定着と参加者拡大の取組	A	A	A	A	定期的な参加者が定着し、町外からの参加者も増えてきた。	新規参加者の獲得	広報やメール配信サービスでの情報提供に加え、口コミによる参加者の拡大を図る。
ウォーキングコースの追加	A	B	C	A	新規コースを2つ新たに追加した。	新規コースの開拓	町内の魅力的なコースを検討する。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28 年度	29 年度	30 年度	目標値 (年度)
「我がまちスポーツ」 ウォーキング参加者数	286人 (H26)	405 人	436 人	364 人	500人 (H31)
ウォーキングコースの設定	2コース (H26)	4 コース	4 コース	2 コース	5コース (H31)

ウ. 麻里府地区活性化事業

麻里府地区の活性化を図るため、防災拠点・生活サービス施設、交通弱者対策など総合的に検討し計画を策定します。

主なアクション	評価				30 年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
麻里府地区活性化事業	C	C	C	C	未策定		地元との協議

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28 年度	29 年度	30 年度	目標値 (年度)
麻里府地区活性化計画	0(H26)	0	0	0	策定 (H27～31)

エ. 買物送迎サービス事業

交通弱者対策については、買物送迎サービス事業の更なる利用者の拡大を図り、交通弱者の移動手段の確保に取り組みます。

主なアクション	評価				30 年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
買物送迎サービス事業	B	B	A	A	経路追加 (H29) などの対応により登録者は増加している。 運転免許証自主返納事業の開始により登録者数は目標数を達成したが、延べ利用者数は690人から604人に減少した。	利用者増対策	継続して利用促進に努める。加えて民生委員協議会で、運転免許証自主返納支援事業のPRを行い、高齢者福祉タクシーの申請者にサービスの説明をする。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28 年度	29 年度	30 年度	目標値 (年度)
買物送迎サービス事業 登録者数	28人(H26)	52 人	65 人	76 人	78 人(H31)

② 地域資源を活用したまちづくり

ア. 河川公園開放イベント事業

あらゆる世代が集える場として、また、子育て世代や若者が情報交換できる場として、文化・芸術関係者のパフォーマンスの場として、河川公園を開放し、テーマに沿った多種多様なイベントの開催を企画します。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
ワークショップの開催・イベントの実施	B	B	B	B	たぶせ桜まつりのほかに、広島広域都市圏でののろしイベントの実施、車いすラリー大会の開催(5組参加)		要望があれば、情報を提供。
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	B	B	B	B	たぶせ桜まつり等のイベントの周知にホームページやFacebookを活用しての発信を行った。		継続して取り組む。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
河川公園イベント参加者数	0人(H26)	40人	110人	130人	1,000人 (H27~31)

イ. 伝統芸能活用事業

町無形民俗文化財指定「大波野神舞」、町内に3団体ある和太鼓団体、また、「防長四白」のひとつハゼの実ろうそくづくりを次世代に継承するとともに、本町の地域ブランド、観光資源として確立するため、町内外での公演、プロモーション活動を企画します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
各団体との調整	B	C	C	C	伝統芸能団体は町内に3団体あるが、それぞれ独自で活動しておられる為こちら型の働きかけとして調整は難しい。		情報の収集や提供に努める。
常打会場(公演場所)の確保	C	C	C	C	未実施		
大波野神舞	C	B	A	A	明治改元から150年の節目を記念してルネッサ長門で開催された中国四国郷土芸能フェスタ(H30.10.21)への参加。	後継者の育成や活動など独自に取り組んでいる。	引き続き、情報の提供や支援を行う。
和太鼓	C	C	B	B	情報の提供や拡散に努めた。	独自に活動をしている。	情報の拡散に努めた。
ハゼの実ろうしぼり	B	C	B	B	ハゼの実ろうそくの情報の活用に努めた。		引き続き後援・支援に努める。
町(県)外でのプロモーション活動・公演	A	C	A	A	大波野神舞が明治改元から150年の節目を記念してルネッサ長門で開催された中国四国郷土芸能フェスタ(H30.10.21)への参加。	後継者の育成や活動など独自に取り組んでいる。	各団体への情報提供に努める。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
伝統芸能参加者数 (観客数)	0人 (H26)	0人	403人	480人	1,000人

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

ウ. 新たな拠点づくり

田布施駅前活性化を図り、新たな観光拠点とするため、周辺道路の整備や駅舎、空家、空店舗の有効活用、また、農工高校とも連携し、一体的な取組が行えるよう総合的な観点で検討します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
関係者・団体、学校、観光協会との連携強化	B	C	C	A	既存の観光拠点の強化として、田布施町地域交流館の改修事業を地方創生拠点整備交付金事業として申請を行い、国から対象事業として決定を受けた。		年度末に事業が完了するよう計画的に取組を行う。
事業計画の策定	C	C	C	A	田布施町地域交流館の改修事業を地方創生拠点整備交付金事業として申請する際に、地方再生計画及び地方創生拠点整備実施計画を策定した。		事業の推移を受けて、計画に軽微な変更があれば迅速に対応する。
駅舎内キオスクの活用	C	B	C	C	具体的な取組に至らず。		

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
新たな観光拠点事業計画の策定	0 (H26)	0	0	0	策定 (H27～31)
キオスク来場者	0人 (H26)	0人	0人	0人	1,000人 (H27～31)

(2) 空家対策の推進及び住環境の整備

① 空家対策の推進

ア. 空家対策の推進

町内全体の空家・空店舗調査を行い、空家等対策計画を策定し、住環境の整備を行うとともに、利活用できる空家等を空き家バンクに登録するよう勧奨し、空き家バンクストック数の拡大を図ります。また、空家を利活用して、お試し住宅や子育てカフェ等の整備をします。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
空家調査・計画策定事業	A	A	A	A	空家調査4戸実施。町内の特定空家13戸(累計)の内4戸(累計)を除却。	特定空家8戸の除却が進まない。	他市町の動向を確認しながら引き続き、特定空家の調査・除去を実施。
空き家バンク事業の取組強化	B	A	A	A	固定資産税納税通知書を発送する際に、空き家バンクに関するチラシを同封した。		継続して取り組む。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
お試し住宅整備事業	A	A	A	A	お試し暮らしの家整備済		たぶせ IJU 推進協議会との連携強化
空家改修家財道具引越補助金の創設	A	A	A	A	田布施町空家リフォーム事業助成金交付要綱の制定 ＝助成件数＝ ・改修 1 件 ・撤去 2 件		継続して取り組む。
子育てカフェ整備事業	C	C	C	C	既存事業との重複や利用者ニーズの低さなどにより、「H29年度子ども・子育て会議」において設置検討したが、具体化には至っていない。		NPO 等の活動要望があれば検討
ホームページなどを活用した情報発信及び情報収集の強化	B	A	A	A	空き家バンク登録物件掲載	登録物件の確保	引き続き、登録物件を確保する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
空家等対策計画	0(H26)	策定済	策定済 (見直し済)	策定済 (見直し済)	策定(H27)
空き家バンク登録勧奨	0件(H26)	1,337 件	2,630 件	9,875 件	200件 (H27～31)
空き家バンク相談件数	0件(H26)	59 件	63 件	81 件	50件 (H27～31)
空き家バンク登録件数	0件(H26)	8 件	10 件	13 件	5件 (H27～31)
お試し住宅整備	0 か所(H26)	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所 (H27～31)
子育てカフェ整備	0 か所(H26)	0 か所	0 か所	か所	1 か所 (H27～31)

② 住環境の整備

ア. 公営住宅の整備

建築物の耐震化を促進するとともに、田布施町公営住宅等長寿命化計画に基づき公営住宅の建替、住戸改善、用途廃止を推進し、地域に配慮した公営住宅の集約化を進めます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
田布施町公営住宅等長寿命化計画に基づいた公営住宅建替、住戸改善、用途廃止	A	A	B	A	新たな田布施町公営住宅等長寿命化計画を策定。		城南住宅建替実施予定(令和5年まで。入居条件の整備)。

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28 年度	29 年度	30 年度	目標値 (年度)
公営住宅長寿命化及び 個別改善戸数	0 戸 (H26)	40 戸	80 戸	80 戸	100 戸 (H27～31)

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

(3) 安全・安心のまちづくり

① 安全・安心のまちづくり

ア. 安全・安心のまちづくり

高齢化が進行する中で、住み慣れた地域で住み続けるためには、地域住民や関係機関等と連携して、安全で安心できるまちづくりをさらに推進していきます。

主なアクション	評価				29年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
防災体制、防災活動拠点の強化	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・女性消防団員 10 人入団 ・城南地域での自主防災組織の立ち上げ支援 ・町の防災拠点の本庁舎の耐震・改修工事の完了 	西田布施地域での自主防災組織の立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・城南地域自主防災組織の設立・支援、西田布施地域への呼び掛け ・中央公民館の老朽化・耐震化、保健センター等の配置計画等の協議・検討 ・防災訓練の実施
地区避難マニュアルの策定	C	C	C	C	各地区の自主的な取組(訓練等)を支援	地区避難場所の把握(物資支援等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自主防災組織との連携・協議(県と連携し、逃げ遅れゼロの取組を実施) ・田布施町災害時受援計画、災害ボランティアセンターとの連携検討
高齢者見守りネットワーク事業	B	B	A	A	事業者数は、増減各1で横ばいだが、事前登録者数は12名から18名に増加した。警察以外にも地域包括支援センターやケアマネジャーからの情報提供が増えて、事業が浸透してきた。	関係機関との連携体制の強化と事業者数の増加	住民へのPR活動と見守りが必要な高齢者の情報収集。(広報へ定期的に掲載する、地区にチラシを配布する。)
子ども見守り連携事業	A	A	A	A	防犯パトロール隊や補導委員による街頭補導活動、夜間パトロール、またスクールガードによる登下校時の子供達の見守り、及びこども110番の旗の配布等の活動実施	組織隊員の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・新規会員の募集を継続 ・学校と地域の連携
安全安心サービス配信事業	B	A	A	A	たぶせメール配信サービスとして運営中		たぶせメール配信サービスのPRを継続実施
消費生活相談体制の整備	A	A	A	A	柳井地域1市4町合同で柳井地域消費生活センターを運営(消費相談件数447件、うち田布施町66件)		消費者だよりや広報等で周知を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)

【評価の仕方】
A：できた B：すこしできた C：できなかった

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
自主防災組織数	3 地区 (H26)	3 地区	3 地区	3 地区	5 地区 (H31)
高齢者見守りネットワーク事業者数	0 社 (H26)	15 社	15 社	15 社	30 社 (H31)

(4) 地域情報の発信力の強化

① 地域情報の発信力の強化

ア. 地域情報の発信力の強化

町ホームページ(HP)を県外移住者が求める情報(しごと・生活関連等)に効果的にたどりつける環境にし、SNSにも対応できるよう改修し、情報発信力を強化します。また、安心して子育てできるように子育てアプリ等を活用した情報発信を検討します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取・対策
	27	28	29	30			
生活関連・仕事情報発信事業	A	A	A	C	取組みはない。		
子育てアプリ等を活用した情報発信の検討	C	C	C	C	取組みはない。		
メール配信サービス事業	A	A	A	A	たぶせメール配信サービスを実施	メール登録会員の拡大、内容充実	ホームページへの連携(機能あり)

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
HP年間アクセス数	108,269 (H26)	147,833	128,150	232,267	130,000 (H31)

(5) 広域連携の推進

① 広域連携の推進

ア. 広域連携の推進

広域的に取り組むことが望ましい事務・事業は長期的な展望に立って、安定した運営と一層の合理化が図れるよう、関係市町との連携を密にして推進します。また、国の連携中枢都市圏制度を広島広域圏で取り組みます。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
広域連携事業(柳井地域)	A	A	A	A	柳井広域圏内で連携し、婚活イベント(3回)、移住イベントの出展、合同就職説明会開催等の事業を実施する。	参加者の掘り起こし	婚活イベントの内容を見直し、イベントを実施する。
広域連携事業(広島広域圏)	B	A	A	A	各事業を実施中。企画係としてスポーツイベントに2回出展を行った。		広島市から提案を受けているご当地 WAON を活用した地域共通ポ

【評価の仕方】

A：できた B：すこしできた C：できなかった

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
							イントへについて、国の動向を踏まえ調査・検討を行う。

重要業績評価指標（KPI）	基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
連携中枢都市圏制度	0(H26)	1制度	1制度	1制度	1制度(H31)

（6） 行財政の向上

① 公共施設の維持管理の最適化

ア. 公共施設の維持管理の最適化

老朽化した公共施設の更新問題や人口減少を考慮した公共施設の在り方などを盛り込んだ公共施設等総合管理計画を策定します。また、耐震化できていない公共施設（本庁舎、中央公民館）については、早急に今後の対応を検討します。

主なアクション	評価				30年度の評価内容	課題・問題点	今後の取組・対策
	27	28	29	30			
公共施設等総合管理計画の策定	B	A	A	A	計画の策定(H28年度)	個別計画の策定	管理計画に沿った施策の計画的実施
庁舎等整備計画の策定	B	B	A	A	庁舎耐震・改修等工事完了		中央公民館の老朽化・耐震化、保健センター等の配置計画等の協議・検討

重要業績評価指標（KPI）	基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
公共施設等総合管理計画	0(H26)	策定済	策定済(H28)	策定済(H28)	策定(H31)